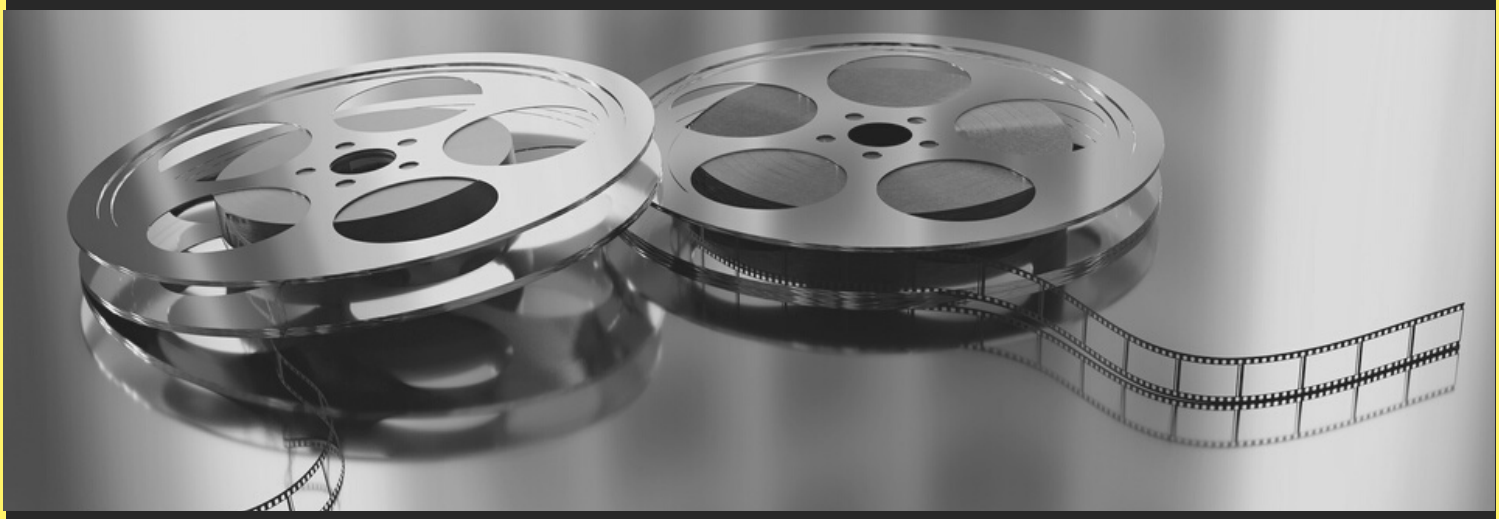
JAUW＜映画クラブ＞会報

シネマ通信

第11号（2024年1月25日）



哀れなるものたち

第11回鑑賞作品

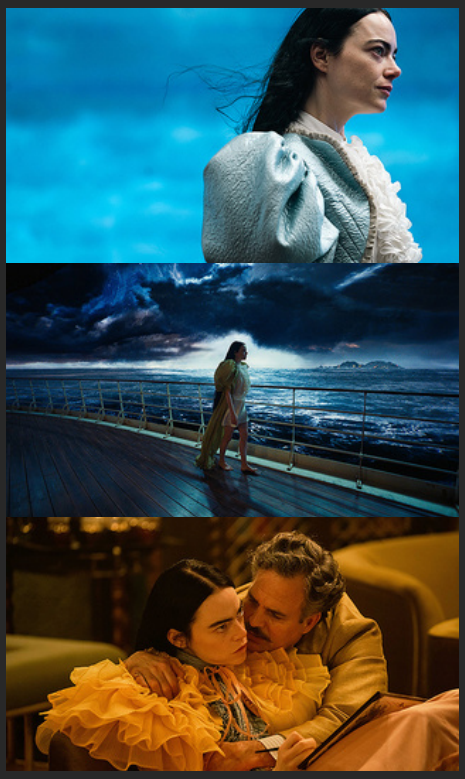
大人の体を持ちながら
新生児の目で世界を見る
ベラは、何を学び
何を求めるのか？

監督：ヨルゴス･ランティモス「女王陛下のお気に入り」
原作：アラスター・グレイ
出演：エマ･ストーン「ラ・ラ・ランド」「女王陛下のお気に入り」
ウイレム・デフォー , マーク・ラファロ

人生に絶望した若い女性ベラ（エマ・ストーン）は自殺を図るが、異端の天才外科医ゴッドウイン・バクスター（ウイレム・デフォー）により自らの胎児の脳を移植され、奇跡的に甦る。生まれ変わったベラは、自身の目で世界を見たい！という衝動に駆られ、放蕩者の弁護士ダンカンに誘われるままに、大陸横断の旅に出る。
大人の体を持ちながら新生児の目で世界を見るベラは、時代の偏見とは無縁。純粋無垢な目で自由や平等の意味を知り、誰もが予期せぬ成長を遂げていく･･･
第80回ベネチア映画祭コンペティション部門で金の獅子賞を受賞。

About Them

「哀れなるものたち」の監督、ヨルゴス・ランティモスは、1973年アテネの下位中流家庭に生まれる。若い頃はコマーシャル制作によって生計を立てていたが、転機となったのが2009年の「籠の中の乙女」。監督・脚本を手がけた本作が第62回カンヌ映画祭にて、ある視点部門のグランプリを受賞し、アカデミー外国語映画賞にもノミネート。これを機にロンドンに移住。『ザ・ガーディアン』紙で「この世代のギリシャ系映画監督の中で最も才能のある人物」と評されました。2015年の「ロブスター」では第68回カンヌ映画祭審査員賞を受賞し、アカデミー脚本賞にもノミネート。2018年の「女王陛下のお気に入り」が世界的ヒットとなり、第75回ベネチア映画祭にて審査員大賞、第72回英国アカデミー賞にて英国作品賞を受賞。英国を代表する映画監督としての地位を確立しました。観客を、常軌を超えた映像世界の虜にする手腕に、ますます磨きがかかる50代。さて、本作では、どんな罠を私たちに仕掛けてくるのか？楽しみです。



About Something

正月気分がまだ残る1月19日、朝食後のコーヒーを飲みながらNHKを見ていたら、歌会始の中継が始まりました。おごそかな雰囲気に興味を覚え、何となく見ているうちに”はまった”ようです。
今年のお題は「和」。和箪笥に母への想いを重ねる人、教え子たちの思い出を詠む人。それぞれに感慨深いものでしたが、特に印象的だったのが「見逃した小さな小さな違和感の粒で自分が作られていく」という一首。詠み手は、内気で思いを人前で言えない自身の半生を綴った60代の女性。その控えめながらも凛としたお姿からは、数々の負の蓄積を、自身の力で正へと昇華させた”人間力”が感じられました。朗々と流れる和歌の響き。ああ素晴しき哉、人生･･･などと思いつつ、ゆったりとした時間を楽しみました。
＊＊＊だが、しかし、人生には、自分の力ではどうしようもない負を負わされてしまうこともありますね。戦争や災害がその最たるものですが、さらに残酷なのが、それが家族によるものだったケースでしょう。実際の裁判を基に制作されたイタリア映画「蟻の王」では、同性愛の存在さえ認めない頑迷な家族の悲劇が、根底のテーマとなっています。舞台は、ポー川南部の田園地帯ピアチェンツア。詩人で劇作家、蟻の生態研究者でもあるアルドのサロンに、ある日、聡明な若者エットレが現れる。一目で惹かれ合った二人は、やがてローマで共に暮らし始める。しかし、エットレの家族は激怒し、警察に通報。アルドは逮捕され、青少年を洗脳したという「教唆罪」で裁かれることになる。パゾリーニやモラヴィアなどの文化人による支援活動も空しく、長い裁判の末、アルドは有罪で9年の禁固刑が言い渡される。エットレは、家族の手で精神病院に送られ、同性愛の治療と称して幾度となく電気ショック療法が強制される。その後遺症で廃人同様となったエットレに、家族が会いに来ることはなかった･･･
この事件が起きたのは1960年代。遠い昔のことではないのです。昨年、ワシントンでレインボー・デモに遭遇しましたが、それは抗議というよりお祭り。この半世紀の世の変貌には、驚くべきものがあります。
では、真にマイノリティーへの偏見は消えたのか？本作の監督ジャンニ・アメリオは「今も存在する”異なる人”に対する憎悪に立ち向かう勇気を与えたい」と、その制作動機を語っています。

文責：安東桂子